

社協活動 最前線 Vol.24 守山区社会福祉協議会

駄菓子を紹介して障がい者と地域住民が 気軽にふれあえるように

第3次地域福祉活動計画「誰もが安心して暮らせる“福祉のまち守山”」を目指し、高齢者・障がい児者・子育て・団地支援の4つの分野で、住民主体となる18の行動計画を推進する守山区社協。『まちの駄菓子屋さん』は、障がい児者施設のイベント開催時や学校の近隣に障がい者施設の利用者が移動式駄菓子屋を出店して、地域の子どもとの交流を深める事業です。

「たとえば私たちの施設は保育園や公園と隣接はしていますが、日ごろの関わりはほとんどなく、生活の中でお互いの存在を意識する機会もありませんでした。どうしても閉鎖的になりがちな障がい児者施設と子どもたちが気軽に交流できないか。それで思いついたのが、障がい者がお店番する“駄菓子屋さん”でした」とは推進メンバーの鈴木さん。

当初、難航すると思われた駄菓子の仕入れや屋台づくりも、地域のつながりに支えられスムーズに進行。やがて初出店となった森孝しぜんかん感謝祭では、懐かしい駄菓子に大人が興味津々となり、思わぬ反響を呼びました。

受け身ではなく社会貢献できる場として

まちの駄菓子屋さんは、区の福祉まつりでも開催され、平成26年度から計3回実施。



駄菓子屋さんの屋台もデビュー(森孝しぜんかん感謝祭)

駄菓子購入者数や売上金額ともに想定を上まわる盛況ぶりです。

「ただ販売実績よりも、障がい者自身がレジを打ち、お客様に“ありがとう”といわれることで喜びを感じ、自信を深めることの方が大切です。世界観も広がるでしょうし、受け身の立場ではなく、社会で自立していくきっかけになれば」と鈴木さん。

現在50力所以上もの障がい児者関係施設・事業所を持つ守山区ですが、障がい児者支援推進チーム担当の川崎主事いわく、「今後は子育て支援や団地支援など、他のワーキンググループともコラボレーションしたり、他の施設・事業所とも協力して広めていきたいですね。まちの駄菓子屋さんが地域に根ざした存在となれるよう、活動をサポートできればと思います」



第3次地域福祉活動計画障がい児者支援推進メンバー 守山区社会福祉協議会
社会福祉法人 清新会 障害者支援施設 川崎 龍一主事
森孝しぜんかん(生活支援員)鈴木 剛延さん